

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102491		
法人名	社会福祉法人みどり福祉会		
事業所名	グループホーム北山		
所在地	岐阜県岐阜市北山1-15-25		
自己評価作成日	平成25年7月22日	評価結果市町村受理日	平成25年10月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2170102491-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2170102491-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年8月7日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に地域の方を招く事に、力を入れてる。年2回ホームの祭りにご家族、地域の民生委員さん、自治会役員の方に、声を掛けさせて頂いている。音楽ボランティアでフルート演奏が行われるが、演奏を地域の方にも聴いて頂こうと、働きかけている。できる限り外に出掛けて頂けるように、近隣の散歩や、月2回の地域行事、喫茶店等小人数ですが、出掛けている。身体、精神的に低下して行く中、出来る事が継続出来る様に、家事仕事を中心にお願ひして生活して頂いている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、地域の人々の健康を守る医療活動と、介護の取り組みを進める活動の中で生まれた。地域との交流を大切に、ホームに入居してから地域で人々と出会ったり、地域の行事に参加できるよう積極的に取り組んでいる。また、地域住民がホームや併設施設の地域交流ホームを訪れ、ホーム入居者と交流する機会を作っている。関連する医療機関も近くにあり医療面の支援も受けやすい。毎日健康面をチェックし、毎月家族に報告・家族の意見の聞き取りもおこない、「出来ることの継続」が実践できるように職員は工夫し、日々支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事に参加させて頂いたり、地域の方に来て頂けるように性続している。運営推進会議で、助言を頂き、更なる進展に繋がるように努めている	利用者の尊厳を守るコミュニケーション、家庭に近い住居環境、地域との交流等を理念に挙げ、目に付く場所への掲示、職員会議等で確認し、理念の共有・実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロン、食事会、運動会、夏祭りに参加させて頂いている。月2回ボランティアの音楽会を開催している	法人本部は、いつでも・どこでも・だれでもが安心して医療・福祉が受けられる実践として各事業施設を設立。事業所もその一環とし設立された。本部活動の一つである地域住民活動に、利用者と職員が参加したり、事業所を訪問する地域の人々があり、日常生活に変化をもたらしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にもホームの音楽会に、来て頂けるように勤めていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護保険課の方に他施設の情報を教えて頂いたり、民生委員さんから、地域の情報を頂いたりして、行事参加の進展に繋げている	家族の代表、行政・地域包括職員、地域役員等が参加し、隔月に開催している。「毎日を単調な生活にしない努力をしてほしい」等意見をもらい、職員は日々のケアへの意識付けに参考にしている。	定員は9名で利用者家族も少なくともはあるが、会議への出席は代表の1家族だけである。ホームや介護に関わる情報や質問が出来る機会ともなるので家族に案内を出す等、家族へ参加を促す取り組みを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	解らない事等、電話で相談させて頂いたり、運営推進会議時に、情報を頂いたりして、連携に努めている	介護サービス利用状況、法改正、時節の注意喚起等市からメール配信があり、情報を得ている。併設施設の地域交流ホールで行われる「行政との協働研修会」へ、利用者と共に参加している。運営推進会議や電話、市への訪問で連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的には行わない。どうしても必要時は全員で話し合い、必要のある場合は、家族の了承を得て、アセスメントしながら、なくす方向に繋げている	管理者や職員は、岐阜県県民医療機関連合会の介護福祉委員会が、毎月1回開催する学習会に出席している。拘束についての正しい知識を学び、拘束しないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会で年1回開催されているものに職員が参加。人権尊重の為やっつけられない事を、職員に周知している。		

岐阜県 グループホーム北山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	全体の学習会で、年1回開催されている。その中で学んで、必要な方があれば支援方法を相談相談できる所で情報を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず説明と同意を頂いてから、対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の方に、投書箱の確認をお願いしている。家族アンケートを行い、貴重な意見を頂き、改善点は対応出来るように努めている。	面会時の聴き取り、家族アンケート、運営推進会議での意見等の機会を通し意見をもらっている。毎月、個別に「生活の様子」を、外出状況・日々の楽しみや役割、会話・医師看護師からの言葉・服用する薬等の項目が入った内容で報告し、家族の感想を記載する欄もありホームに返信されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で職員の意見を聞いて、話し合いをしている。職員会議で出された意見を、管理者に報告したり、労働組合で交渉して対応している	「連絡ノート」に業務の伝達や職員の気づきを記載し、職員全員が目を通し、確認することを実践している。現在、職員の意見を取り入れ、現状の改善となるか取り組み中の課題がある。提案は、試行、検討をくりかえし運営に反映させている。管理者は、ノートに経緯等も記載し、職員間で共有する。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員会議や個別面接、労働組合との交渉を通じて、少しでも向上心を持って働ける職場作りを目指して居る。生きがいレポート作成に職員で取り組んだ。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回開催される全体学習会への参加を通じて、力量アップや介護職員同士の交流を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や、GH協議会の会議等に参加させて頂き、他事業所の方と交流を取り、情報交換などを図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が無理な場合は、ご家族から生活歴を中心に情報を頂き、少しでも穏やかに生活出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここまで見て来られたご家族の思いをきちんと労い、その中で対応に苦慮した事などをお話しして下さるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	外部のサービスが必要な場合は、ご家族に情報をお伝えして、今後サービス活用に繋げていっくか相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る力をなるべく継続して頂けるように、支援し、職員間で話し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべくご家族と一緒に時間を過ごして頂けるように、ホームに来て頂いたり、電話で状況をお伝えして安心して頂けるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にお願いして出掛けて頂いたり、他のサービスにお願いして対応できる関係作りをしている。	行きつけの美容院へは家族と共に出かけたり、知人友人のホーム訪問を大切にしている。併設施設の地域交流ホールでの催しや出先のスーパー、商店、喫茶店等で馴染みの人々との出会いがあり、利用者との関係が継続できるよう、タイミングや体調管理に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月職員会議を行い、利用者の状況について個々の関係で孤立しないように、職員の対応を話しあっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され契約が終了した後でも、ホームで協力できる事があれば対応している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話や出来る事が少しでも継続出来る様に、プラン内容に反映し、話し合いを行っている	日々の会話や様子、来訪時や電話での家族からの意見、3ヶ月毎の再アセスメント等から把握・確認している。把握した情報は、「連絡ノート」や個別介護記録に記載し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に、ご本人様の生活歴を把握して、生活環境を継続出来る様に、話し合いを行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事仕事、散歩等の運動、字を記入する事など出来る事を、出来るだけやって頂けるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントや職員の意見、ご家族の思い、ケア内容を評価して、その中でその中でプランを作成している	本人や家族の意向は面会時や電話で確認し、医師、看護師からアドバイス・意見を情報収集する。職員情報とし「連絡ノート」への記入事項、職員会議での意見等参考に、利用者が普通に暮らせる介護計画を作成する。毎月モニタリング、3ヶ月毎に計画見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録を記入して、ケア内容の評価の判断に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内で対応できるご本人、ご家族のニーズは、職員間で検討し対応に努めたり、その他のサービスで対応出来る情報があれば、相談しながら対応に努めている。		

岐阜県 グループホーム北山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーへの買い物に、職員と一緒に出かけたり、また地域の食事会など、楽しみにされているので、多くの方に参加して頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が何処で受診をして頂くか判断している。対応出来ない場合は往診で、対応している	協力医療機関は、近隣にあり、受診支援することもある。協力医による往診は、月2回ある。協力医療機関にない歯科、整形外科への受診支援は、家族が行うことを基本としているが、家族が対応できない場合、通院方法とし同法人のヘルパーステーションの活用等相談にのっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に、訪問看護に来て頂いて、状況を把握して頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関と連携をきちんと取って対応している。相談もきちんと対応して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には終末期に関して事前にホームが、どこまで対応できるかをお話しし、その中で医療機関なのか、他施設なのか、ホームで対応するのかを、ご家族、医療機関との話し合いを持って対応している。	食事摂取が困難になったときを目安に、移転先を申し込んである。重度化した場合の指針と同意書があり、基本、看取りの時期は「家族の訪問・付き添い」等、家族の協力のもと支援する。これまでに看取りの事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命の学習会を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ケアハウスと合同で消防訓練は年2回開催している。1回は地震と火災発生訓練、1回は夜間火災発生を想定して実施している。地元自治会主催の防災訓練に利用者職員が参加した。個々利用者の移動方法を書面にして、職員室に貼付している。	利用者の誘導訓練や火災報知機の通報訓練を行っている。ホームは1階でケアハウスが2階以上にあり、火災時の誘導方法について消防職員と話し合っている。また、地域自治会の防災訓練に利用者が参加し、担架にのる等、積極的に訓練に参加した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で尊重して対応出来る様に、努めている。職員が対応に詰まる時は、職員間で交代しながら、また穏やかに対応できるように努めている。	「人権を尊重する」は理念にも挙げており、学習会で毎年取りあげ、職員間で意識付けしている。一人ひとりを尊重した言葉かけ、対応であるように、職員の気づきを連絡ノートに記載、記載事項から職員間で話し合う等行い、本人を尊重したケアを目指している	個別介護記録、個人情報の書類の保管場所が他者から見やすい為、人目に付かない場所、鍵のかかる書類棚など保管場所や方法の工夫が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらから声けをして出来る事は、やって頂いている。強制しないようにしている。自発的に出来る方は自由にやって頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の対応が増えてきている支援の中で、職員の動きが優先してしまう部分もある。職員会議で話し合いを持ち、時間が少しでも取れる様に、週2回は入浴をなくし、ゆっくり話しをお聞きしたり、散歩に出掛けたり、気分転換して頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧や整髪等身だしなみに気を付けている方は、自由にさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好品や嫌いな物を把握して、苦手な物の時は、パンを食べて頂いたり、うどん等の麺類を食べて頂いている。	調理が得意な職員が多いが、調理に関わることでケアへの見守り力が減ることもあり、昼食のみケアハウス厨房より配食している。食事摂取量や水分摂取量もあわせて記録に残し体調管理をしている。体調にあわせ、その都度、食材の硬さを調節し食べやすく手を加えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や栄養面が少ない方は、ココア、ロールケーキ、プリン、ようかん等、個々で、摂りやすい物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアは、出来ていない。就寝前には介助したり、声掛け、見守りしながら口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄が出来る方は、チェック表に記入して定期的に誘導している。また夜間帯は、ポータブルトイレを使用している。	排泄時に自立・誘導・介助の区分時間帯など、半月分ごとに1枚の記録用紙に記載し、本人のパターンを把握する。排泄、食事、水分摂取、本日の体調等記載し健康面全般が半月単位で経過観察・把握できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	炊飯時に寒天を入れて、繊維質を多くしたり、水分摂取の声かけ、歩く事等の運動をして頂き対応している。無理な方は薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後に入浴を行い、毎回入る方、一日おき、2日おきの方と個々の思い、状態に合わせて対応している。	1対1の入浴介助であるが、脱衣所での介助は、介助者が2名必要であり、職員のほとんどが入浴介助を担当できる。1人30分ほどの入浴になるが、点滴治療の後、入浴する人もあり、本人の時間に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆さんのペースで休んで頂いている。昼寝をされたり、夜間眠れない方は職員室まで来られて、飲み物を飲んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りノートに変化があった時は記入している。その他は毎回往診時処方箋を頂くので、ファイルにとじて、閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活状況によって、出来る事をやって頂いている。こちらの支援が必要な方は、一緒に家事仕事や散歩、外出して気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に出掛けたり、ご家族と一緒に出かけて頂いている。	天候や本人の体調を考慮しながら職員と共に40分～1時間、距離が短いと建物周辺を日々散歩している。毎月同法人の小規模特養の施設喫茶店へドライブがてら出掛けている、菖蒲、バラ、菊など季節の花見には声かけし、一緒に出かける家族もある。	



岐阜県 グループホーム北山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額でもお金を管理できる方は、ご家族と相談して持っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたい方は、ここから掛けて頂いている。年賀状など節目に出される方の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自然の物を取り入れて、花など飾って季節感を出すように努めている。周囲は、みどりを出来るだけ多く取り入れている。	共用空間は広く、ボランティア活動時、ケアハウスや地域の人々が来訪し楽しい時間を共有する空間となる。ホーム周辺には高い建物がなく緑が多く、室内への採光も良い。掃除は職員により行われ清潔である。一段高い畳敷きの部分があり、柵等あるが、現在整理中である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関外にベンチを置く事で、外の空気を吸って頂いたり、ソファで一人座ってもらったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を自由に部屋へ持って来て頂く。	ホームで大きなクローゼットを用意しているが、家族により筆筒、鏡台、椅子、仏壇など馴染んだものを持ち込み、暮らしやすく配置している。家族の写真、趣味の品等壁に飾り、「自分の部屋」「安心して過ごせる部屋」づくりへの工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせて、簡易手すりを使用したり、怪我のない様に、家具材を保護したり、個々の状態に努めている。		